

検討会 番号	第2回 case5
年齢(代)	60代
性別	女性

S (subjective) : 主観的情報	
主訴	腹部膨満感、食欲不振、下腿のむくみ、四肢の冷え感、左鎖骨(リンパ節)付近の違和感
既往歴	
	(アレルギー)不明
	(手術歴)なし
	(出産) (事故)
家族歴	(父) (母) (子)
現病歴	(医師による診断名)胃がん・リンパ節転移(その他の転移箇所、転移年月日不明、尿管を圧迫しているとの事)
	(発病様式・内容・経過)下部参照
	(服薬)テガフル(TS-1)、六君子湯、サプリ(がんクリニック)

O (objective) : 客観的情報	
初診日	x年 3月
所見(脈・舌・バイタル等)	(バイタル)
	(脈) 細、微 (舌) (腹) 腹水、腹部膨隆
	(硬結) (圧痛) (腫脹)

A (assessment) : 評価	
評価・弁証	(弁証)
	(評価法) (流派)

P (plan) : 計画 (治療)	
計画・治療・指導	(取穴)百会、足三里、腰部・足底部に光線療法
	(刺鍼法)浅置鍼 (時間)5分
	(得気)無 (深さ)2mm
	(頻度)
	(指導)
経過	
特記事項	

経過：

胃がんが判明した時(発症日不明)、ネットで調べた整体に通う事を選択した。そこでは主催者の言う事を聞けば病気が治るといわれ信じて通っていた(通院年数不明、現代医学や他の療法を否定し自分の所だけかかりなさい)、との事であった。

しかし、症状の経過は思わしくなく、悪化した状態で現代医学による治療を選択した。

放射線治療33回、がん専門クリニックで、超高濃度ビタミンC点滴療法と全身温熱ホルミシス療法・サプリ、テガフル(TS-1)服用していた。

x年3月当院初診、独居である事や意識レベルなどを考え、65歳以上であり自治体でのがん支援サービス「がん在宅緩和ケア支援センター」の支援を受けられることから、住所地近辺の地域包括センターに連絡し、後日保健師との連絡の段取りを立てた。

x年4月、体調が改善せず入院。一度退院するも5月に再入院。鍼灸は3回の施術で、x年5月に逝去された。

診断初期で現代医学の管理下から離れ、選択肢を狭めてしまった事をご家族とともに悔いていらっしやった。